



呉支部だより

平成 31 年 3 月 発行 第 84 号 編集及び発行元 (公社)広島県宅地建物取引業協会呉支部
平成 31 年 3 月 1 日現在の会員数 167 名

支部研修会

平成 30 年 12 月 4 日(火) 13 時 30 分～16 時 40 分
呉阪急ホテル
出席者 会員・従事者 60 名、一般 1 名

- テーマ 1. マスオさんが語る 日本の家族と住まい 俳優・声優/増岡 弘
 2. 全宅住宅ローン(株)よりお知らせ 全宅住宅ローン(株)中国支店支店長/松本 晋
 3. 災害と不動産価格の動向について 不動産鑑定士/徳満秀規

今回の研修会、講師には俳優・声優としてご活躍で、皆様お馴染み TV 番組「サザエさん」のマスオさん役など、多数出演されておられる増岡 弘氏をお迎えして「マスオさんが語る 日本の家族と住まい」と題してご講演頂きました。

「一度出た言葉は取り消せない」「自分は忘れても相手は覚えている」という言葉の大切さ。「一生懸命に伝えても 20%程度しか伝わらない」という伝えることの難しさ。ご自身の体験談など心温まるお話を伺いました。終盤は増岡氏と会場が一体となり、まるで増岡氏の優しい魔法にかかったかのように、皆さんの表情が無邪気な少年少女のようになっていたのが大変印象に残りました。今後、仕事をする上で参考になることも多かったように思います。

次に全宅住宅ローン(株)の松本支店長より、ローンについての有益なお話を聞かせて頂きました。最後は不動産鑑定士の徳満氏より「災害と不動産価格の動向について」と題しご講演頂きました。同じ業界にありながら、なかなかお話を聞く機会のない不動産鑑定士という専門的な立場から、固定資産税評価の方法やこれまでの経緯なども詳しくわかり易く教えて頂きました。「不動産鑑定士」さんがより一層身近な存在になった気がします。

これからも皆様のお役に立てる研修会を企画して参りますので、益々のご参加をよろしくお願い致します。
執筆者/広報育成委員 志々田和典



新入会員のご紹介

エイトエステート(株) 知事(1)10816

呉市中央 1-6-9
代表者/澤井美千代 宅建取引士/本人

(株)スカイラク興産/土居勇 H31.1 月退会

お知らせ

支部事業・決算報告会

広島宅建(株)提携企業による説明会

平成 31 年 4 月 18 日(木) 16 時～
呉森沢ホテル

詳細は案内文を送付致します。

支部行事報告

■ 12月11日 第2回役員会

- 協議事項: 1) 新入会員の紹介
 2) レクリエーションの収支報告・反省
 3) 相談員研修の事業・収支報告
 4) 支部研修会の収支報告・反省
 5) 支部運営委員会・新年互礼会について
 6) 2019 年度の事業計画・予算編成
 7) 2019 年度の相談日について

■ 1月15日 勉強会

■ 1月17日 運営委員会/呉森沢ホテル

出席者: 33 名 (委任状提出 83 名)

■ 1月23日 呉市主催空き家等に関する合同相談会

■ 2月19日 勉強会

■ 2月23日 呉市主催空き家対策講演会

宅建協会呉支部長という立場で、村石支部長が講演しました。会場は呉市役所絆ホール。ホールに設営されたイスだけでは足りず、パイプイスを追加するほどの来場者で、改めて“空き家”の関心の高さを認識致しました。



■ 2月26日 第3回役員会

- 協議事項: 1) 2018 年度の予算執行状況・決算見込
 2) 2018 年度の支部事業・決算報告会
 3) 2019 年度の主要行事予定について
 4) 勉強会について
 5) 不動産フェアについて

勉強会のお知らせ



呉支部会議室におきまして、毎月第3火曜日の 13 時 30 分～15 時に開催しています。毎月担当が替わり、色々なテーマを基に「共に学ぶ」を目的として行っています。皆様、お気軽にご参加下さい。

新年互礼会

平成 31 年 1 月 17 日(木) 17 時～19 時
呉森沢ホテル 出席者 33 名

呉支部の新年互礼会が呉森沢ホテルで行われた。参加者の顔ぶれを見渡しますと、やはりベテラン会員の方が多く見受けられるようですが、女性の姿もよく目立つようになりました。不動産業界は法改正を含め、目まぐるしく業務環境が変わって来ており、そうした変化に対応していくのは本当に大変です。若い人のシビアな感覚に年配会員も刺激され、若手会員の方も年配会員の体験等が参考になることもあります。互いの業者が一堂に会して親交を深めることはとてもいい事だと思います。各テーブルともそれぞれに情報交換が行われているのか・・・盛り上がって話題は尽きないようです。

宴もたけなわとなり、恒例の福引き大会が始まった。最初に担当役員が抽選箱から当たり番号を読み上げた。「19 番～!」「おっ、私だ!」ナンバーカードを持っていそいそと壇上に上がり、村石支部長から大きな賞品を贈呈された。この後も順次、当たり番号が読み上げられる度に、各テーブルから歓声上がる。

残念ながら賞品にあやかれなかった方々(約 20 名)のために、即興のスクラッチが配られた。なんと一等賞金 777 万円! 各人、夢は大きく膨らみ、図柄の開封に勤しむも・・・聞こえてくるのはため息ばかり。平成最後の新年互礼会は、こうして“笑いのため息”の入り混じる中、宮尾前支部長の 3 本締めでお開きとなりました。会員の皆様のご今年のご活躍をお祈り致します。併せて会の開催準備をされた役員の皆様にもお礼を申し上げます。

執筆者/尚明誠商事 木村秀和

